心に必要な大切なもの

苫小牧市立青翔中学校 安田朱里 2年

「人間ってアサハカよね。ヒョーメン的な情報でしか物を見れないっていうか。」

これは、私が好きな漫画、スパイファミリーの中で、同級生から悪口を言われたアーニャに友達がかけた言葉だ。アーニャはスッと心が軽くなり、悪口を気にしなくなる。私は心がホワッと温まるこの場面が大好きだ。

私も友達の言葉に助けられたことがある。なぜか私は知らない人から悪く言われる時があり、気にしないふりをしていたけど、耐えきれなくて友達に相談した。すると「よく知らない人のことを悪く言う人、好きなの?嫌いだよね?嫌いな人から嫌われるなんて、むしろラッキーじゃない?」と私が考えもしなかった言葉が返ってきた。そしてアーニャと同じでフワッと心が軽くなった。なぜ友達の言葉はスッと心に入るのだろう。たぶん親や先生に全く同じ言葉を言われても、ここまでは響かない。胸に何かがつかえて通らない感覚だ。きっと友達は、学校の「空気感」を知っているからだと思う。先生の声、チョークの音、ささやき声、そして視線。全てが混じり合うそこにしかない、そこに居ないとわからない「空気感」を知る友達の言葉は説得力が桁違いだ。そして相談する友達のほとんどが「私も色々あったんだよね・・・」と言う。私だけじゃなかった。みんな色々あるんだ。

私は、傷つかないように強くなるべきだと思っていた。でも、多かれ少なかれみんな傷ついている。気にしないのは無理だ。傷つかない方法を探すより、傷ついた時にどうするかを決めておくことが大切ではないだろうか。勇気を出して相談したら、身近な友達が一瞬で解決してくれるかもしれない。無理だったら、その隣の友達が何か教えてくれるかもしれない。ダメなら他のクラスの友達が・・・。そうやって救いを求め続けられるのも、学校だ。私も、大切な友達の心を救える人になりたい。

でも、誰にも言えないほど追い詰められたらどうしよう。テレビでは、知らない人から誹謗中傷されたことによる悲しい出来事が報道されている。心の救世主になる何かがあれば避けられたかもしれない。私にとってそれは、スパイファミリーだ。落ちこんだ日は必ず読む。すると思わずクスッと笑ってしまう。その瞬間、押し潰された心にちょっとだけ隙間が出来て、ほんの少しだけ楽になる。この習慣は、きっとこれからも私を救ってくれる。これからも私には色々あるだろう。でも大丈夫。私には信頼できる友達とアーニャがいる。